

原子力規制委員会委員長

田中 俊一 様

## 川内1・2号の審査書案を受けた地震動評価等に関する公開質問状

原子力規制委員会は7月16日、川内1・2号に関する審査書案を決定し、科学的・技術的意見を募集しています。しかし、私たちは地震動の評価手法および基準地震動の策定手法について貴職宛てに公開質問状を再三提出していますが、未だ十分な回答を得ておりません。2014年3月18日の「高浜3・4号、大飯3・4号、川内1・2号の地震動評価」に関する原子力規制委員会・原子力規制庁との話し合いでは、回答者の「沈黙」が続き、回答になりませんでした。その翌日、緊急に再度の話し合いを3月末に持つよう申し入れましたが、「あれ以上の回答はできない」と拒否され、仕方なく3月24日に7項目の要請書を提出しています。大飯3・4号の運転差し止めを命じる5月21日の福井地裁判決を受けて、5月23日には緊急公開質問状を提出していますが、「審査中の内容には回答できない」とのことでした。

今回、審査書案が決定され、審査も一段落がつけましたが、科学的・技術的意見を提出するためにも、その前提となる地震動評価の基本的な考え方、とくに規制基準の審査ガイドで参照するよう指示されている原子力安全基盤機構報告書の手法について貴職から十分な回答を頂きたく、ここに公開質問状を提出致します。

7月29日に誠意あるご回答を頂けるようお願い申し上げます。

### 1. 審査書案の位置づけについて

(1) 貴職は7月16日の記者会見において、「新基準への適合はみているが、安全とは私は申し上げないと何度も言ってきた。」「安全はゼロリスクと誤解される。政治的に分かりやすいから『安全』と(菅義偉官房長官は)言ったのかもしれない。政治家の言うことと私の言うことは同じではない。」「技術なので対策し尽くしているとは言い切れないが、リスクを減らすことに努めた。人知の及ばないことがあるというのが、不確かさにつながる。」「安全の第一義的な責任者は事業者。それを見ていくのが私どもの役目だと思う。」「(毎日新聞2014年7月16日)と回答していますが、これは「福島第一原発重大事故のような炉心溶融事故が川内1・2号で繰り返される可能性があることについては否定しない」という意味に受け止められますが、それに相違ありませんか。

(2) 原子力規制委員会は2013年4月10日の本会議で安全目標について次の内容を決定しています。

「①旧原子力安全委員会安全目標専門部会における検討結果(※)を議論の基礎とする(※炉心損

傷頻度 $10^{-4}$ /年程度、格納容器機能喪失頻度 $10^{-5}$ /年程度等)、②放射性物質による環境への汚染の視点も取り込むこととし、事故時のCs137の放出量が100TBqを超えるような事故の発生頻度は、100万炉年に1回程度を超えないように抑制されるべきである(テロ等によるものを除く)、③安全目標は、全ての発電用原子炉に区別無く適用するべきである、④安全目標は、原子力規制委員会が原子力施設の規制を進めていく上で達成を目指す目標である。⑤安全目標に関する議論は、今後とも引き続き検討を進めていく。」

貴職の7月16日の発言によれば、「①と②の安全目標値の達成に努力したが、これらが満たされたかどうかは分からない」という意味だと受け止められますが、それに相違ありませんか。

(3) 「原発重大事故のリスクが万に一つでもあることを否定しない」というのが審査書案の立場であるとすれば、「川内1・2号で万が一重大事故が起きたとしても、それは事業者の責任であって、原子力規制委員会の瑕疵ではない」と逃げを打っていると受け止められますが、それに相違ありませんか。

## 2. 「震源を特定せず策定する地震動」について

(1) 原子力安全基盤機構JNESは2001～2009年の報告書(前身の原子力発電技術機構NUPECのものを含む)の中で、「震源を特定しにくい地震」による地震基盤表面での地震動を断層モデルで評価し、M6.5の横ずれ断層により、図1のように、震源近傍で1340.4ガルの最大加速度を算定しています。これは、応力降下量と高周波遮断特性について「平均+標準偏差」の小さなバラツキを考慮した結果ですが、震源近傍での地震観測記録の不足を補う意味で重要な地震動評価結果だと言えます。現実にも、2008年岩手・宮城内陸地震M7.2では一関西の地下岩盤で1078ガル(はざとり波では2000ガル相当)が観測されており、1340.4ガルは決して大きすぎる値ではありません。「震源を特定せず策定する地震動」の候補地震は最近十数年程度をカバーするにすぎず、データ不足をこのような地震動評価結果で補うべきだと私たちは考えますが、いかがですか。

(2) 2004年北海道留萌支庁南部地震M6.1の2つのアスペリティ平均応力降下量は、27.9MPa(面積1.96 km<sup>2</sup>)と12.9MPa(面積7.84km<sup>2</sup>)と評価されていますが、JNESによる上記の断層モデルでは最大でも19.1MPaにすぎず、留萌地震による地震観測記録585ガル(川内1・2号では620ガル)はJNESによるM6.0やM6.5の地震動評価結果(逆断層の場合で400～500ガル)を超えています。これはJNESによる断層モデルでも、とりわけ逆断層では、過小評価の可能性があると私たちは考えますが、いかがですか。

(3) JNESはM6.5の横ずれ断層モデルによる地震動評価結果で1997年5月13日鹿児島県北西部地震による鶴田ダムでの地震観測記録を図2のように良く再現できることを示していますが、九州電力による震源モデルでは川内原発敷地内での地震観測記録を十分再現できていません。図3のように、東西EW方向より小さい南北NS方向の波形こそ短周期側で良く合っていると云えますが、短周期側がより大きいEW方向の波形では1/2～2/3にすぎず、上下UD方向でも1/2程度にすぎません。これは、JNESの断層

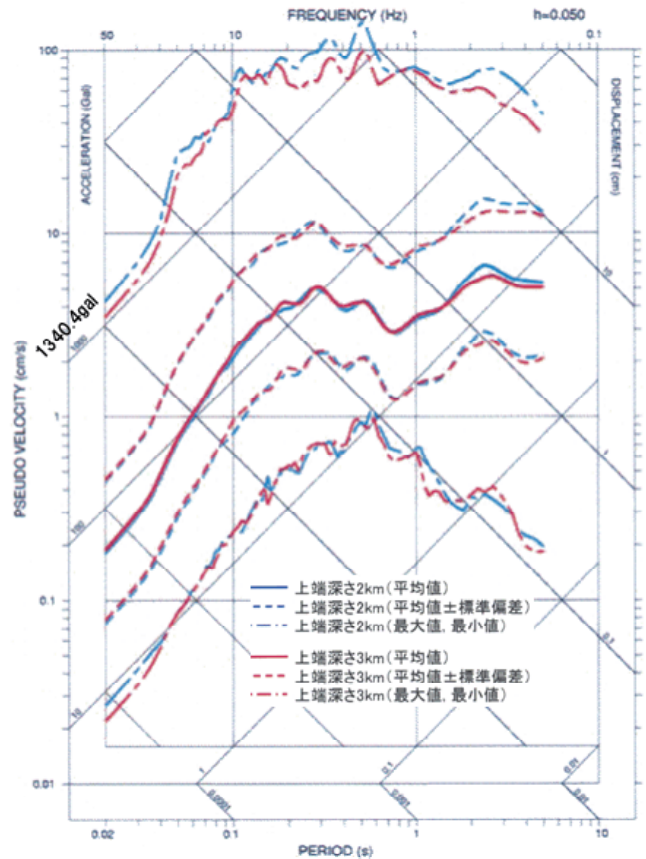


図1. 横ずれ断層モデルM6.5による地震動評価結果 (Vs=2600m/sの地震基盤表面上に設定した231評価点における各周期ごとに求めた地震動応答スペクトルの平均値、標準偏差、最大・最小値であり、特定の評価点での応答スペクトルではない。最大値は、アスペリティ実効応力と高周波遮断特性がいずれも「平均+標準偏差」の場合である)

モデルでは地震規模がM6.5と大きくアスペリティ応力降下量も最大19.1MPaと大きいものに対し、九州電力の断層モデルでは、M6.2(0.90×10<sup>18</sup>Nmに対応)と小さく、アスペリティ応力降下量も15.9MPaと小さいからだと私たちは考えますが、いかがですか。

(4) 1997年5月13日鹿児島県北西部地震の地震モーメントの値として、九州電力が断層モデルで用いた要素地震と同様に the Global CMT project による値を用いると、アスペリティ平均応力降下量は25.1MPaになります。川内原発での内陸地殻内地震観測記録に基づく耐専スペクトルとのスペクトル比は図4のように国内内陸地殻内地震の平均的な補正係数より大きく、プレート境界地震の震源特性に近いと言えます。したがって、通常より大きめの応力降下量を設定すべきであり、九州電力の設定したアスペリティ平均応力降下量15.9MPaは未飽和断層の平均的な

値15.6MPaと同程度に過ぎず、25.1MPa程度であれば、図4の結果とも整合すると私たちは考えますが、いかがですか。

また、九州電力は三宅ら(1997)のアスペリティ面積24km<sup>2</sup>を用いて、断層面積66.2km<sup>2</sup>と断層平均応力降下量5.8MPaを算定していますが、アスペリティ面積比が36.4%と異常に大きく、経験値と整合しません。三宅ら(1997)に含まれる誤差を考慮してアスペリティ面積を24km<sup>2</sup>から20.3km<sup>2</sup>に少し小さくすれば、

断層面積は92.4km<sup>2</sup>、アスペリティ面積比は平均的な経験値22.0%になり、断層平均応力降下量は5.5MPaになります。これらのアスペリティ応力降下量・面積を用いれば、図3の地震観測記録を適切に再現できると私たちは考えますが、いかがですか。

### 3. 「震源を特定して策定する地震動」について

(1) JNESによる「震源を特定せず策定する地震動」に関する断層モデル(未飽和断層)では、通常のレ

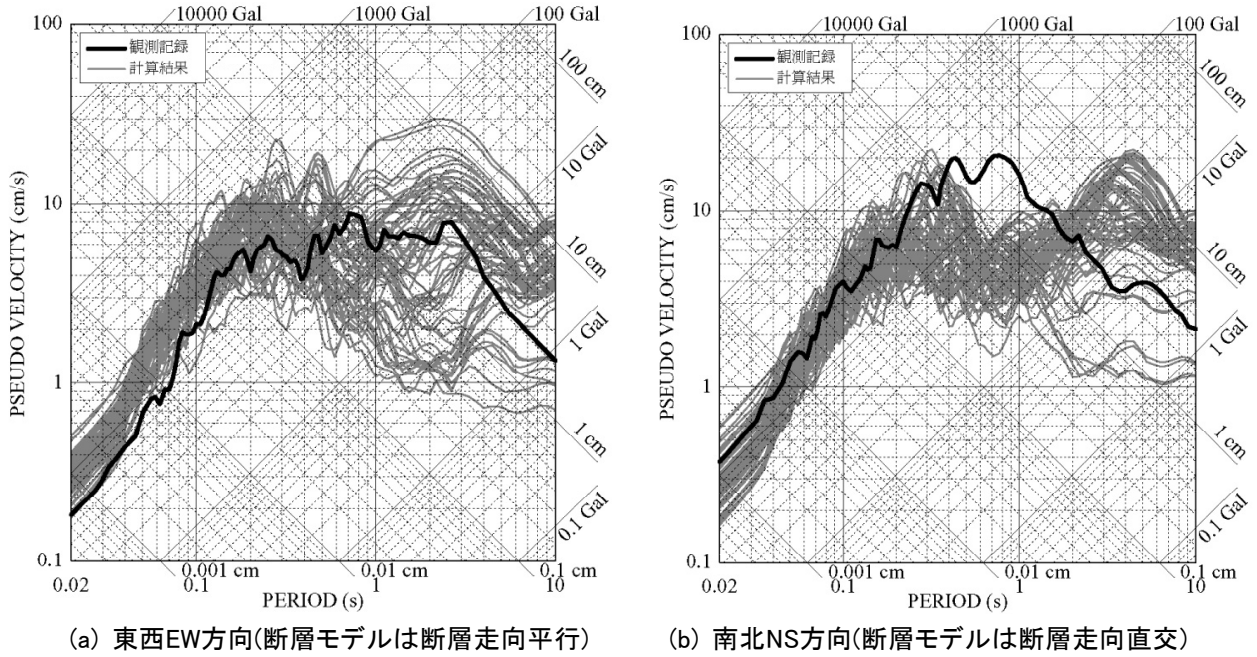


図2. 1997年5月13日鹿児島県北西部地震(M6.3)の鶴田ダムでの地震観測記録と観測位置に相当する評価点での横ずれ断層モデル(M6.5)による地震動評価結果の比較(等価震源距離が20.8km(鶴田ダムの震源距離) $\pm$ 0.5kmの範囲にある地震基盤表面評価点での計算結果が重ね合わせてある。高周波遮断特性は「平均」、アスペリティ実効応力は大中小の3通り。5月13日の地震は、震源断層がL字型の二重震源であり、地震規模もM6.3だが、JNESはM6.5の横ずれ断層で近似している。それでも断層モデルによる地震動評価結果は観測記録と良くよく整合している。)

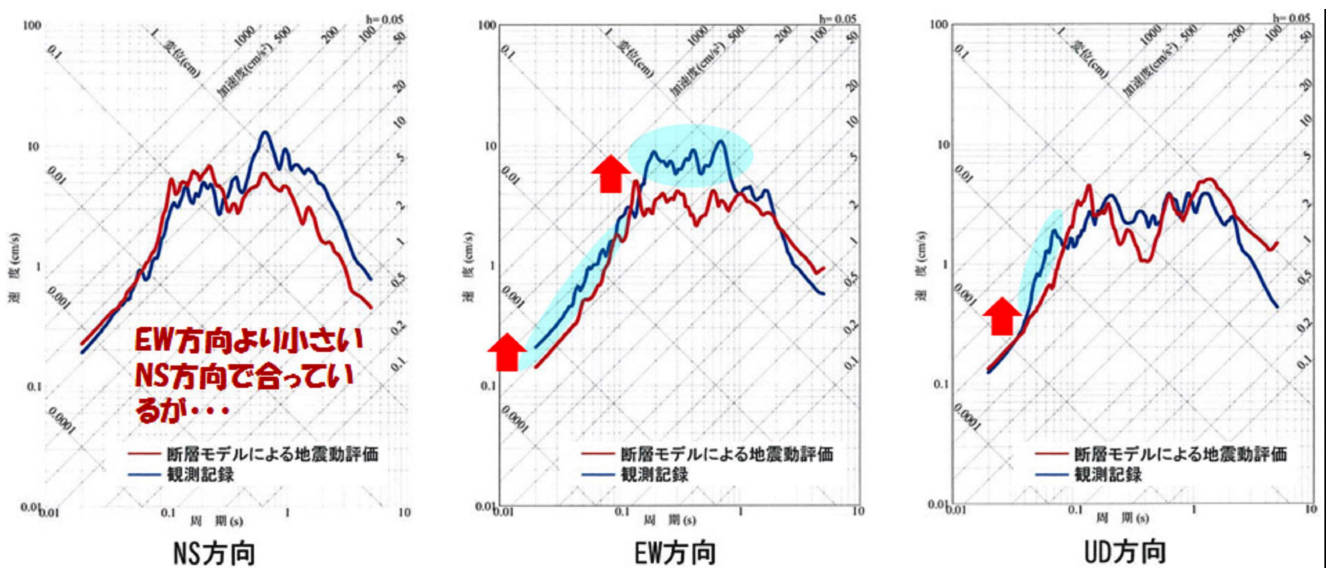


図3. 九州電力の特性化震源モデルによる1997年5月13日鹿児島県北西部地震の再現計算



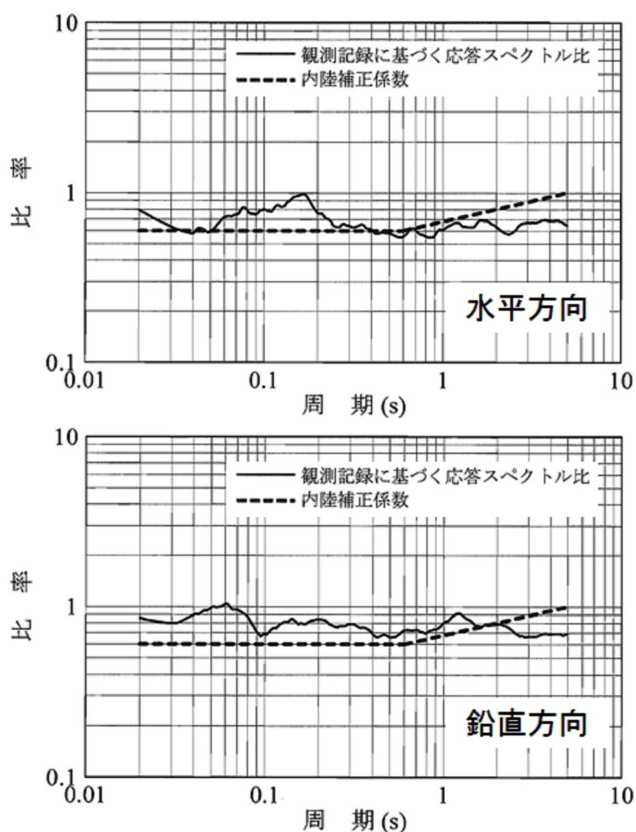


図4. 川内原発での内陸地殻内地震観測記録に基づく耐専スペクトルの補正係数 (破線はNoda et al.(2002)の示した国内の内陸地殻内地震に対する平均的な補正係数, 実線が川内原発での観測記録に基づく補正係数)

レシピとは異なり、気象庁マグニチュードから地震モーメント $M_0$ を武村の簡略式で求め、断層面積 $S$ を入倉式ではなく武村の $S$ - $M_0$ 関係式で逆算しています。その結果、通常のレシピと比べて、地震モーメントが大きく断層面積が小さく算定されるため、応力降下量が大きくなっています。そうしなければ、地震観測記録に整合しなかったためだと推測されます。換言すれば、通常のレシピは北米中心の地震データに基づいているため、国内の活断層にそのまま適用すると断層面積に対する地震モーメントが半分以下に小さくなり、地震動が過小評価されることを表していると私たちは考えますが、いかがですか。

(2) 川内1・2号の地震動評価で、九州電力は、断層平均応力降下量と断層面積から地震モーメントを逆算しており、市来断層帯市来区間では、断層長さから松田式で求めた地震規模にほぼ等しくなります。しかし、これは偶然にすぎず、図5に示すとおり、地震規模が増えるほど、その差が開き、甕断層帯甕区

間の震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケースでは松田式による地震規模の約70%にしかなりません。九州電力による方法(アスペリティ平均応力降下量を15.9MPa、断層平均応力降下量を5.8MPaと

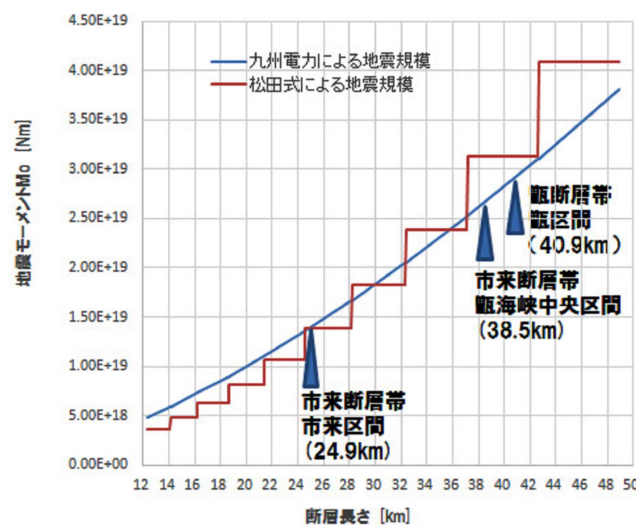


図5. 九州電力による地震規模と松田式による地震規模の比較(断層幅は13km)

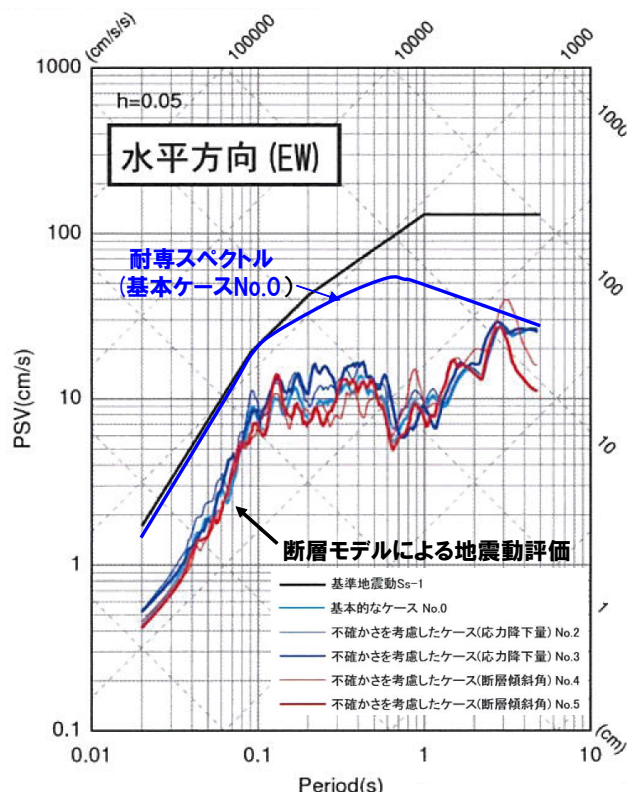


図6. 市来断層帯市来区間の耐専スペクトルと断層モデルによる地震動評価結果の比較

設定する方法)では、地震規模の過小評価と応力降下量の過小評価の両方の効果で地震動が過小評価されると私たちは考えますが、いかがですか。

地震調査研究推進本部が警固断層の長期評価で行っているように、断層長さから松田式で地震規模を求め、それに見合うように断層面積などの震源パラメータを微修正して地震動評価をやり直すか、九州電力のように応力降下量を固定するのであれば、スペリティ平均応力降下量を25.1MPaに設定して地震動を評価し直すべきだと私たちは考えますが、いかがですか。そうすれば、図6のように耐専スペクトルの1/2~1/3にしかならない断層モデルによる地震動評価を大きく改善できると私たちは考えますが、いかがですか。

(3) JNESによる「震源を特定せず策定する地震動」では耐専スペクトルと縦ずれ断層モデルによる地震動評価結果を図7のように比較しています。図7の平均値は断層の周囲40km×80kmの領域内231点で評価された「周期ごとの地震動応答スペクトルの平均値」であり、等価震源距離で数十kmも離れた地点での平均的な応答スペクトルに相当しますが、断層モデルと耐専スペクトルではほとんど差はありません。本来は、このように、評価手法が異なっても同様の結果が出るはずであり、図6のように断層モデルが耐専スペクトルの1/2~1/3というのは断層モデルの設定法に上記のような問題があるからだだと私たちは考えますが、いかがですか。

(4) しかし、図7の「最大値」、すなわち、震源近傍での等価震源距離が5km程度と非常に短い場合には、耐専スペクトルは断層モデルの1/2~1/5にすぎません。図1の横ずれ断層モデルの「最大値」と比較すれば、その差は1/3~1/8に開きます。これは、耐専スペクトルが作成された当時、震源近傍での地震観測記録が欠落していたからだだと私たちは考えますが、いかがですか。2008年岩手・宮城内陸地震など最近20年間に震源近傍で地震観測記録が取られていますので、少なくともこれらでデータを補充し、また、断層モデルでも不足分を補って、耐専スペクトルを構築し直すべきだと私たちは考えますが、いかがですか。

(5) 基準地震動の策定に際して、耐専スペクトルに

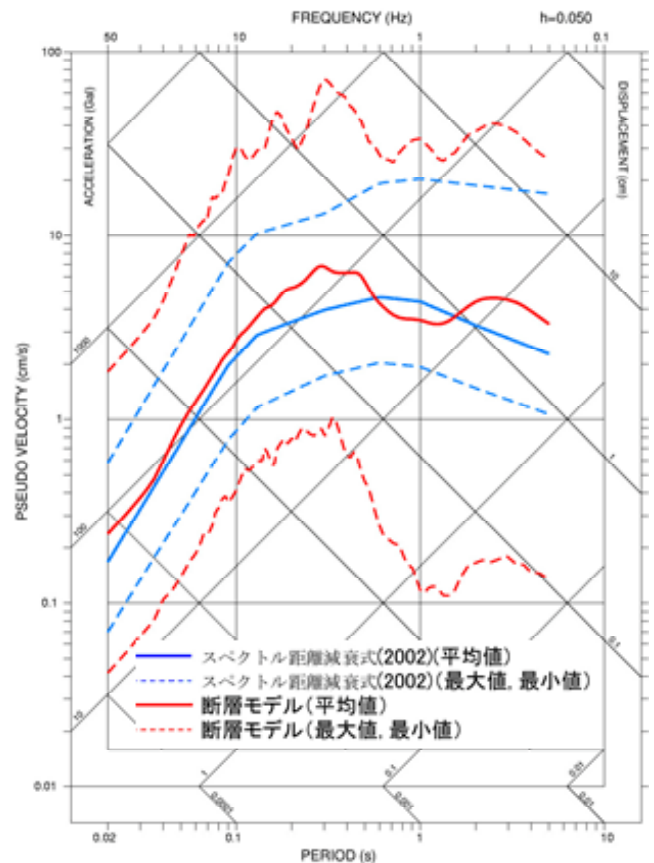


図7. 耐専スペクトル(内陸補正後、図中では「スペクトル距離減衰式(2002)」と記載)と逆断層モデル(地震発生層3~20km)による地震動評価結果の比較(M6.5)

(図1と同様に地震基盤表面231点での応答スペクトルの周期ごとの平均・最大・最小値で、最大値はアスペリティ実効応力と高周波遮断特性がいずれも「平均+標準偏差」の場合)

おいては、「倍半分」のバラツキがあることを考慮して余裕を持たせるべきだと私たちは考えますが、いかがですか。また、断層モデルでは、「基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド」で「震源の極近傍での地震動の特徴に係る最新の科学的・技術的知見を踏まえた上で、さらに十分な余裕を考慮して地震動が評価されていることを確認する。」と規定していますが、十分な余裕をもたせるためのルールを明確にしてください。とくに、JNESの報告書では高周波遮断特性に「平均+標準偏差」のバラツキを考慮していますが、川内1・2号等での適合性審査でこの不確かさを考慮しないのはなぜですか。

以上

添付資料

長沢啓行(2014): 1000ガル超の「震源を特定せず策定する地震動」がなぜ採用されないのか, 若狭ネット第150号, pp.9-35(2014.7.12)

**呼びかけ団体:**川内原発建設反対連絡協議会、川内つゆくさ会、反原発・かごしまネット、まちづくり県民会議、川内原発活断層研究会、東電福島原発事故から3年一語る会、さよなら原発:アクションいぶすき、原発ゼロをめざす鹿児島県民の会、かごしま反原発連合有志、原子力発電に反対する福井県民会議、サヨナラ原発福井ネットワーク、原子力資料情報室、若狭連帯行動ネットワーク(事務局担当)

**賛同団体・個人: (2014.7.21現在 92団体、463個人)**

[北海道] 山内恵子、林昌樹、久保あつこ、安田浩行  
[青森] 核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団、浅石紘爾  
[福島] 双葉地方原発反対同盟、社民党福島県連合、福島県教職員組合郡山支部、石丸小四郎、佐藤龍彦  
[宮城] みやぎ脱原発・風の会、舘脇章宏、篠原弘典  
[新潟] 柏崎原発反対刈羽村を守る会、脱原発をめざす新潟市民フォーラム、中村哲也、武本和幸、武田貞彦  
[東京] すなめりの会、原子力資料情報室、日本消費者連盟反原発部会、ふえみん婦人民主クラブ、安達由起、斉藤美智子、山口泰子、伴 英幸、西尾 漠、松久保肇、谷村暢子、吉岡香織、松井芳子、樋山節子、山本晶子、湯浅欽史、小川幸子、島京子、唐津八千代、小玉修三、高木章次、富山洋子、澤井正子、星川まり、郡山昌也、田中一郎  
[神奈川] 小沼智子、岡村孝子、下山久美子、熊坂兌子  
[千葉] 魚住公成  
[茨城] 反原子力茨城共同行動、根本がん  
[埼玉] 細谷 孝、野口久枝、稲月 隆、栗原裕司、くまがいマキ  
[静岡] 東京電力と共に脱原発をめざす会、原発震災を防ぐ風下の会、太田川ダム研究会、なくそう浜岡原発天竜の会、小池泰子、堀 考信、粕谷たか子、西原幸子、東井 怜、古浦勝久、長野栄一、塩崎恵子、落合明夫、下山久美子、岡本 尚、松谷清  
[長野] 伊藤 順、西村悦子  
[愛知] 核のごみキャンペーン・中部、安楽知子、岡田雅宏、吉川 守、村上鐘清  
[富山] 川原登喜の  
[石川] 志賀原発を廃炉に！訴訟原告団、原発震災を案じる石川県民、北野 進、堂下健一、岩淵正明、中田博繁、奥村回、橋本明夫、北尾美帆、川本藏石、川本 樹、中垣たか子、斎藤繁  
[福井] 原子力発電に反対する福井県民会議、サヨナラ原発福井ネットワーク、株式会社森と暮らすどんぐり倶楽部、石地 優、松下照幸、山崎隆敏、田代牧夫、中嶋多恵子、若泉政人、石森修一郎、笠原一浩、芦野順介、大西真治、宮川和子、西浄由起夫、杉原厚子、

[京都] 京都原発研究会、山田耕作、尾崎一彦、吉武仁貞、田中康司、田中順子、大津定美、坂和優、  
[滋賀] 滋賀県放射性チップを告発する会、池野正治、西村廣宣、白永昇次、下村俊彦、更家周子、宮地英紀  
[大阪] 原発やめよう／つながろう関西・マダム会議、脳性まひ者の生活と健康を考える会、科学技術問題研究会、労働組合なにわユニオン、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン、どこまでも9条の会、大阪此花発！STOPがれき 近畿ネットワーク、全日本港湾労働組合関西地方大阪支部、平和と民主主義をめざす全国交歓会、ストップ・ザ・もんじゅ、福島の子どもたちを放射能から守ろう・関西、原発ゼロ上牧行動、STOP原子力★関電包囲行動、みらくる∞未来を創るにんげんアクション、9条改憲阻止共同行動、ヒバク反対キャンペーン、若狭連帯行動ネットワーク、地球救出アクション97、チェルノブイリ・ヒバクシヤ救援関西、子どもたちを放射能から守る大阪ネットワーク、国際女性年連帯委員会、風を起こす女の会、大阪東南フォーラム平和・人権・環境、環境フォーラム市民の会(豊中)、日本消費者連盟関西グループ、小西妙子、高井千彰、小川亮、色見勝徳、白木原雄、乾 清之、戸田寛、戸田 剛、田辺秀作、寺西久雄、松野尾かおる、高橋もと子、中井かをり、前田由隆、長沢啓行、長沢由美、久保きよ子、久保良夫、定森和枝、山崎清、稲岡美奈子、稲岡宏蔵、猪又雅子、原 三郎、三田宜充、三田恭子、金澤知成、黒石昌朗、太田陽子、森田悦子、曾我部玲子、中野陽子、須波あゆみ、柳内ちよ子、花立和代、足立須香、山口直子、立花善子、陰山みどり、八瀬宗子、高木永貢子、上松治美、桃田恵子、寺西久子、中井久子、中井のどか、北川芳美、野澤八千代、田中一成、木村英生、山本ゆき、木村洋子、康 由美、長澤民衣、富士野佐和子、大山裕喜子、山本次子、陶山喜代子、岸上知三、中沢浩二、中山一郎、服部良一、中澤和子、三好龍孝、荒木淳子、土代 武、出来秀人、堀田雅代、松尾哲郎、山田 肇、瀧石雄介、中野晴久、平見 毅、山本光子、松尾和子、奥村剛子、重松信子、林田 史、春木博美、中野正史、門林洋子、山崎憲成、坂元千賀子、遠藤慎夫、北阪英一、疋田真紀、鎮西節子、山本英子、東野セツ、木下佳子、松永節、松本郁夫、鴨井憲雄、鎌橋照子、三輪佳子、胡桃沢伸、永田洋子、相川直美、杉村尚子、石川豊子、福井 浩、山下慶喜、房本晃、三上一子、秋山佳世、宗博文、春日直樹、黒石昌朗、川嶋澄夫、山口喜彦、古橋雅夫、増田直美、黒河内繁美、黒河内正行、山崎一典、衛藤ますみ、田中 徹、仰木 明、堀本フミ子、永久睦子、鈴木隆史、大森正子、難波希美子、水野和子、牛田 等、向井千晃、畑 章夫、増田京子、鈴木くみ子、滝沢厚子、山口光枝、森本良子、松田耕典、大伴一人、杉村ルミ子、池田春海、大野ひろ子、八木 稔、平

松清司、平松重美、藤谷卓志、藤谷悦子、竹本明代、武慎太郎、美佐田和之、平尾貞之、若本洋子、花木弘子、森 由子、森 賀代、今木誠造、富田洋香、富田茂樹、稗田 滋、大石恵子、田中たけよし、吉田美恵子、野口たい子、高木宏子、鈴木めぐみ、林田 史、和田幸子、村上ひとみ、井上和歌、吉井正代、山崎隆生、北村純男、稲村隆生、稲垣一美、大畑喜一郎、佐野米子、佐野正文、斎藤直樹、斎藤英美子、

[兵庫] 原発の危険性を考える宝塚の会、さよならウラン連絡会、安全食品連絡会、鈴蘭台食品公害セミナー、現代を問う会、神戸YWCA平和活動部、さよなら原発神戸アクション、建部 暹、喜岡笙子、北川れん子、喜多康夫、高橋智子、竹本衣江、富樫 章、振津かつみ、中川慶子、奥田 亮、北田万寿夫、田中章子、井上正弘、稲垣清美、辰野淳子、山崎昌子、梶原義行、中井 忠、森 妙子、小林まゆみ、津村富代、寺西 清、味村良雄、北川諭、小谷美智子、立間節子、石田加代、中村雅子、板垣正行、中原一栄、丸尾牧、木村英子、赤塚弘美、今井和雄、松原康彦、八木和美、村田三郎、米澤興治、樋口多佳子、野口紀恵、野口嘉孝、矢歌淳子、

[奈良] 奈良脱原発ネットワーク、反原発奈良教職員の会、さよなら原発北葛の会、さようなら原発生駒、川崎寛子、田中正和、岩佐元春、梅谷敦子、加藤義明、金丸知佳、井上智絵、三宅恵子、野澤七雄、足立嘉代子、菅原紘美、松尾富雄、榎本恭一郎、旭 幸美、平岡敏幸、野口夏紀、山本万知、窪田義廣、中村優衣、山口花織、西林紗紀、大川雅博、辻和将、篠原章二、村橋香美、坂下智子、若松未来、橋本 繁、保浦公夫、堀田美恵子、住吉純子、中西克至、上島 博、二階堂裕之、熊谷千栄子、見田暎子、鈴木恵美子

[和歌山] 寺井拓也、内海洋一、田中美津子、上平正子、泉 正、

[島根] 島根原発増設反対運動、島根原子力発電所3号機の運転をやめさせる訴訟の会、芦原康江、阪本 清

[岡山] 小林秀朗

[広島] 原発はごめんだヒロシマ市民の会、市民SOHO蒼生舎、みどり福山、ヒロシマ・エネルギー・環境研究室、木原省治、溝田一成、脊尾昌弘、さとうしゅういち、坂田光永

[山口] 原発いらん！山口ネットワーク、三浦翠、小畑太作、上里恵子、山戸貞夫

[愛媛] 阿部悦子と市民の広場、原発さよなら四国ネットワーク、原発さよならえひめネットワーク、原発なしで暮らしたい松山の会、愛媛の活断層と防災を学ぶ会、放射能を憂慮する市民の会、農薬空中散布に反対する会、愛媛環境ネットワーク、伊方原発反対八西連絡協議会、八幡浜・原発から子供達を守る女の会、伊方原発をとめる会、

阿部悦子、小倉 正、垂水正和、垂水栄子、近藤 誠、大野恭子、渡部伸二、古茂田知子、土居立子、大本光子、井出久司、松尾京子、谷口博徳、斉間淳子

[高知] 植村和暢、植村厚子、松本高子、

[福岡] 荒木龍昇、足立力也

[長崎] 歌野礼、歌野敬、歌野啓子、森崎竜一

[宮崎] 宮崎の自然と未来を守る会、青木幸雄、鶴内敏之、小川渉、日野原義文

[鹿児島] ピース・アクト出水、天文館アトムズ、川内原発建設反対連絡協議会、川内つゆくさ会、まちづくり県民会議、川内原発活断層研究会、反原発・かごしまネット、まちづくり県民会議、東電福島原発事故から3年一語る会、さよなら原発:アクションいぶすき、原発ゼロをめざす鹿児島県民の会、かごしま反原発連合有志、荒武重信、有馬和子、安藤成子、小川 彰、小川美沙子、川畑一勝、北畠清仁、小藺元子、小原治代、城 眞理、城下義博、嶽釜百合子、田中ひろみ、佃美喜子、外山一正、道免明子、鳥原禧一、鳥原良子、鳥原雅子、中俣貞子、馬場園征子、福丸のり子、堀之内しおり、松田勝美、松田良子、松山喜美子、三園敏則、武藤智子、村田明子、森永明子、山下勝次、山下美紀、若松静美、赤星悠子、井ノ上利恵、杉原洋、橋爪健郎、松元成一、向原祥隆、山中六江、福島直子、永池美穂、鮫島亮二、さめしまことえ、鮫島曜、鮫島乃絵、のぐち英一郎、八木純子、大久保文子、福崎富実子、福崎結子、今村重喜、凶師博隆、橋野裕明、馬場慶郎、前園啓子、西藺典子、増尾良子、坂下孝、川路孝、徳満正守、池畑浩、松永明敏、松永三重子、道免芳隆、道免明美、中村進一、中村忍、中村一義、鳥越勇夫、平鉄臣、鳶田義輝

#### 連絡先:若狭連帯行動ネットワーク

久保 TEL 072-939-5660 dpmz005@kawachi.zaq.ne.jp

長沢 TEL 072-269-4561 ngsw@oboe.ocn.ne.jp